



<第40号>

東杏印刷は医療現場を支える皆様・患者様にとっての快適な医療空間づくりをお手伝いします

発行所 TOKYO PRINTING CO.,LTD. 東杏印刷株式会社 〒178-0063 東京都練馬区東大泉2-11-4 TEL 03-3923-1101(代) FAX 03-3923-1109 あんずだより編集部 http://www.tokyp.co.jp

スマートフォン専用



あんずだよりのバックナンバーがご覧頂けます

集 日頃からお使いの印刷物を より見やすく、より経済的に

今回のあんずだよりでは、皆様が日常業務で使用される印刷物について、ちょっとした工夫と、知っているのと得をする豆知識をご紹介いたします。少しの知識で今よりもずっと見やすいもの、そして使いやすいもの。そういったものを少しでも活用していただければ、意外な所で簡単にリスク回避やコスト削減が出来るかも知れません。今回はそういったところに印刷会社としてのノウハウをご紹介しますので、是非一読ください。

印刷物でちょっとしたアイデアを

見直して頂きたいのが「書体」です。



①見やすさ・使いやすさ (UDフォント)

皆様が日常的に使用している印刷物の仕様・様式は様々かと思えます。例えば、同じA4用紙に印刷するにしても、印字面積に余裕のある物、それとは逆に紙面一杯に印字している物とでは情報量や見やすさに違いがあります。情報量の多い書式で更に項目を追加した際、紙のサイズを大きくしたり、新しい情報の代わりには他の情報を削除したりすることは多々あります。しかし、「見やすさ・使いやすさ」を考慮して用紙のサイズ変更や他情報を削除する前に、是非

皆様はUDフォント(ユニバーサルデザインフォント)をご存知でしょうか。これは少し前から注目されている「ユニバーサルデザイン」のコンセプトに基づいた書体です。ユニバーサルデザインとは、「出来るだけ多くの人が利用可能であるようなデザイン」を基本コンセプトとしたもので、人が生活する上で、「見やすさ・使いやすさ」と言った細かい部分に配慮・工夫したデザインを指します。一般の方は勿論、高齢者や目の見えにくい方なども「便利で見やすく・使いやすい」と思えるデザインです。昨今、このUDフォントは交通標識や各種案内表示・看板、薬の服薬説明書など世の中で広く使われており、あらゆる人の正確な情報伝達に役立っています。

「数量を多く刷ると一枚単価が安くなる」と言うのは従来言われていた印刷物のメリットですが、そのメリットに隠れて時によって生じるデメリット(リスク)もあるという事は、表だって言われることが少ないようです。

②リスク回避を考える

その主なリスクとしては、「保管場所の占拠リスク」・「品質劣化による処分リスク」・「書式変更による処分リスク」が挙げられます。

例えば、複写伝票などのノーカーボン用紙の品質期限は一年とされており、劣化に対してはともてリネートな製品です。ノーカーボン用紙には、電子顕微鏡レベルで見られる大きさの粒子の混合反応液を詰め込んだ、「カプラー」と呼ばれる極小のカプセル物質が吹き付けられています。ペンなどでノーカーボン用紙に圧力を加え、カプセルを押し潰す事で、複写面に塗布された発色剤と化学反応させ発色させる構造となっています。圧をかけて発色するので「感圧紙」とも呼ばれます。この様に、ノーカーボン用紙は、特殊な液体(薬品)を使用し

Dフォントを書式見直しの際の一つの選択肢としてお考えになつてはいかがでしょうか。

いる関係上、以下のことが弱点と言われています。

・湿気に弱い

水に濡れることで塗布した薬品が薄まってしまい複写不良を起こします。更に複写後の文字も消えてしまう可能性があります。従って、保管する際は湿度の高い場所を避けることをお勧めします。

・圧力に弱い

圧力を加えて複写するので、当然ながら落下物による強い衝撃や重い物を乗せると発色する可能性があります。保管の際は多くの在庫を重ねず、間に板紙などを挟むことをお勧めします。

③コストの削減を考える

印刷方法・用紙の変更・加工の変更とスリム化の方法は様々。その中で、印刷方法によるコスト削減についてお話しします。

皆様お持ちの印刷に対するイメージは、「最低ロット」と言った縛りがあり、少数数に対する価格・数量的な順応性が低い」と言うものではないでしょうか。「内容が良く変わるのであまり部数はいらさないけど、価格が一括だからつい多く作ってしまう」そんな話をよく耳にします。結果、必要のない数量を印刷することで、初期コストは勿論の事、その後変更が生じ、使

い切るまで訂正シールなどで対応し、新たなコストを生み出す経験をされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。以上を背景として、弊社では少数数印刷への対応強化に取り組みしております。特にチラシ・パンフレット・診察券・ポスターなどのカラー印刷では、必要な部数を印刷する事で、変更等で生じる新たなコストへの抑制に

繋がるというお客様からのお声を頂いております。その他、バリアブル印刷(一枚一枚に対して違う情報を入れる印刷方法)にも力を入れており、手間のかかる宛名書の印刷化や、贈る人に合わせた個々の特別なメッセージ・画像などを作成することも可能となりました。これにより、今まで従業者の方々が内部で行っていた作業を軽減し、皆様の時間的・人的なコスト削減につながると思っています。世の中には弊社では対応出来ない、少数数化の難しい製品もまだまだたくさんありますが、弊社で今出来るベストな方法を今後もご提案させて頂きます。是非ご相談下さい。

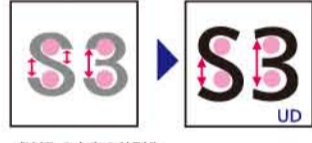
UDフォントはシンプルで見やすい?

読みやすさの向上と誤読を防ぐために、デザインにいくつもの工夫がされています。

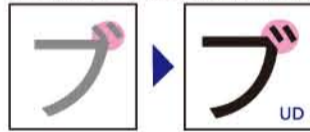
まぎらわしい線をなくしてシンプルに



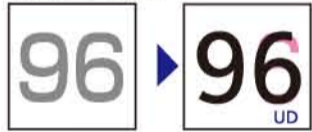
空を確保して判別しやすく



濁点部分のギャップを十分に確保して、視野を高める



点対称の文字の差別化



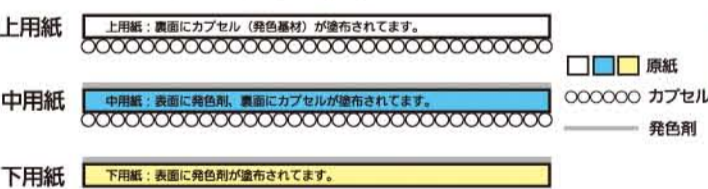
ちなみにこのフォントはUDフォントです



①見やすさ・使いやすさ

印刷物での工夫あれこれ

ノーカーボンのしくみ



③コスト削減



②リスク回避



隔月連載 かかりつけ薬局の細道

～面薬局・かかりつけ薬局になるための経営改善塾～

第6回

かかりつけ薬局として、指名してもらえそうですか?

REDAS(リーダス)代表取締役 大丸裕介

さて、今年はいよいよかかりつけ薬局元年。医療分業以来、約40年ぶりの大きな構造変化が始まりそうな気配です。まだ様子見という薬局も多いかもしれませんが、最近、様々な薬局経営者とお話する際に気になることがあります。それは今回の制度改革についての焦点が点数増減ばかりに意識が向いていることです。ここにも『院外処方功罪』を感じざるをえません。日本の調剤薬局の薬剤師さん(漢方・相談薬局・ドラッグストアを除く)はいつから患者様目線ではなく、点数目線になってしまったのでしょうか。患者様のためには、言いながら、実際はそうでもないようです。人間、慣れるのは早いもの。地域の健康相談や病気の改善を担う薬局の大部分は消滅し、患者様目線の抜けた病院・クリニックの下請け薬局が多くなりました。この状態から果たしてどれほどの薬局が本来あるべき姿に戻れるか正念場となりそうです。

「お客様(患者様)にとってのかかりつけ薬局のメリットは?」 薬歴管理、作用重複チェック、飲み合せチェック、eRx…。どれもとても大切。しかし肝心のお客様は、その重要さや薬局サイドの苦労に気付かず、当たり前の業務程度にしか映らない可能性があります。それらを謳っても、かかりつけ薬剤師としては指名して貰えないのです。お客様がわざわざ貴店に処方箋を集約するにはもったいない。な動機が必要で。例えば、お客様が求めているのは利便性と価格。単純な話し、(法をクリアする形で)来店ポイント制度を導入した方がよほど喜ばれます。しかし、利便性と価格(ポイント)での競争になると大手チェーンが有利。中小はもっと別なことを考えなければなりません。薬局だからこそできること。専門知識と経験を持つからこそできること。人間だからこそできること。その3点の先を再度見なおしてみてください。

見るべきは人間。

今回の制度改革を点数でみるのではなく、今一度、本来薬局があるべき姿を根本から見直すことはできないでしょうか。薬局だからこそできること、たくさんたくさんあります。これだけ現代病が増え、少子高齢化のセルフメディケーションの重要性も高まる一方、多くの人に目を向け過ぎると人間の人間の琴線を感じる事ができなくなります。今こそ、視野を狭く、一人のお客様に目を傾け、そこから戦略的ターゲットを絞ることが重要です。ターゲットを絞れば、深いサービスの提供が可能となり、かかりつけ薬局としての指名獲得に、大きな前進をすることが出来ます。この制度改革はヒントとチャンスが多々あります。ぜひ足元から見なおしていきましょう!

